

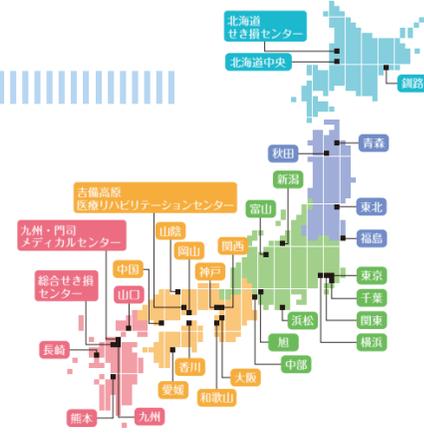
全国の労災病院薬剤部のつながり

【全国労災病院薬剤部会】

労災病院は全国に32施設あり、薬剤部では全国労災病院薬剤部会を立ち上げ活動を行っています。毎年行われる全国労災病院薬剤部会議では、各薬剤部の現状報告や共通する課題についての話し合いが行われ、各施設の薬剤部の向上を図っています。また全国32施設の薬剤部から情報を収集し薬剤部会としての研究課題の発表を行うなど、薬剤部全体の発展に取り組んでいます。

【関東中部ブロック労災病院薬剤部会】

全国を5つのブロックに分け、ブロックごとに薬剤部会の活動を行っています。当薬剤部は関東中部ブロック薬剤部会（緑色のエリア）に属しますが、毎年ブロック内の9つの労災病院と本部治験センターの併せて10施設から薬剤師が集まり薬剤部会議を開催しています。会議には70～100人程が集まり、研究発表や近況報告、意見交換会などが行われます。研究発表は自由テーマで行われますが、参加者が労災病院の職員同士ということもあり質疑応答も活発に行われる傾向があることから、学術大会等への練習として使われ、新人などの教育の場にもなっています。また各施設の近況報告では各薬剤部の問題点や新たな取り組みについて話し合われ、意見交換会では病院の規模や地域性、働く環境が違う薬剤師が集まるなかで活発な話し合いが行われます。多くの仲間と知り合うことができ、有意義な情報交換を行うことができる労災病院薬剤部会は全国展開しているグループ病院ならではの強みといえます。



募集要項

業務内容	病院における薬剤師業務全般 (調剤・注射業務、抗癌剤調製業務、病棟業務等)
選考方法	書類選考、作文(45分)、面接 (作文のテーマは毎回違いますが、将来どのような仕事がしたいかといったものが多いです)
選考の特徴	患者さんや多職種と関わりが増えている薬剤師ですので、コミュニケーション能力を重要視しています。
提出書類	新卒：卒業見込証明書、成績証明書、履歴書(写真貼付 市販のものでも可) 既卒：職務経歴書、薬剤師免許証(写)
募集対象	薬剤師免許取得見込み者(令和6年4月) 薬剤師免許取得者
募集人数	若干名(正規職員)

待遇について

給与・賞与	初任給 大卒 209,399円(調整手当含む) 昇給 年1回 賞与 年2回(6・12月)
諸手当	時間外勤務手当、夜間勤務手当、扶養手当、住居手当(28,000円まで)、通勤手当、調整手当(基本給の3%) 初任給調整手当など
休日・休暇	週休2日制(4週8休)、土・日曜日、国民の祝日、年末年始(12月29日～1月3日) 育児休暇(5日)、介護休暇(5日)、年次有給休暇(20日)、特別休暇(夏季休暇(5日)、結婚(5日)、忌引等)、創設記念日など
福利厚生	組合健康保険、雇用保険、労災保険、厚生年金保険、確定拠出年金、財形貯蓄制度(一般・年金・住宅)、退職金制度など
その他	修学資金制度 (金額については総務課へお問い合わせください)、 一般研究費制度(初年度から5年目までは5,000円/月)、 処遇改善手当(8,750円/月)、 職員旅費制度(一般旅費・学会旅費)、 教育・研修制度、派遣交流制度、転勤制度、 産前産後休暇制度(産前産後8週)、 育児休業制度(満1歳になる年の年度末まで)、 育児短時間勤務制度(満4歳になる前日まで)、 医師等短時間勤務制度(小学校入学前まで)、 その他特別費用など

勤務形態

二交代制	8:30～17:15(休憩45分) 16:00～9:00(休憩60分)
------	--

薬剤部からのお知らせ

右記のQRコードより薬剤部紹介サイトへアクセスできます。



薬剤部紹介



薬剤部紹介動画

薬剤部見学(随時受付) 薬剤部の見学を随時受け付けています。実際にどのような環境で私たちが仕事をしているのか見学に来て下さい。お気軽にご連絡ください

〈連絡先〉千葉ろうさい病院 総務課 E-mail: shomuka@chibah.johas.go.jp

Chiba Rosai Hospital

独立行政法人 労働者健康安全機構
千葉ろうさい病院

薬

剤

師

募集のご案内

資格を生かせる環境で新たな一歩を。



千葉ろうさい病院 薬剤部の紹介

薬剤部員総数 26人
 薬剤師数 定数22人
 補助者 4人（薬剤助手3人、事務1人）

がん薬物療法認定薬剤師 外来がん治療認定薬剤師 感染制御認定薬剤師
 NST専門療法士 DMAT 骨粗鬆症マネージャー スポーツファーマシスト
 糖尿病療養指導士等多数の免許を取得・維持しています。

取得した資格を生かせる環境で業務にあたっています。

薬剤部の主な業務

調剤業務や注射業務、無菌調製、抗がん剤調製、院内製剤作成、DI業務、外来での抗がん剤説明といった薬剤部中央での業務の他に、薬剤管理指導業務や病棟薬剤業務、TDM、チームラウンドといった病棟での業務、委員会活動や研修会・勉強会の開催など色々な業務に関わっています。



調剤室



スタッフルーム

地域の薬剤師会との会議や
 近隣薬局との勉強会にも
 使用します



アンブレ
 ピッカー

注射室



抗がん剤
 の調製

感染制御担当

病院は入院している患者さんのために日々、衛生的な環境を保つ必要がある場所です。感染対策委員会ではチームを組織し感染の拡大防止や感染症の治療に取り組んでいます。消毒薬の取り扱いや院内の環境衛生の確認を行うICT(Infection Control Team:感染症対策チーム)、医師、看護師、検査技師と共に抗菌薬の適正使用の提案を行うAST(Antimicrobial Stewardship Team:抗菌薬適正使用支援チーム)の一員として毎週2回、院内ラウンド活動に参画しています。院内ラウンド用の資料作成に時間が掛かることや、多職種とのコミュニケーションなど大変なこともあります。感染の仕事を楽しみながら活動しています。

千葉ろうさい病院 病院紹介



職員概要	
病床数	400床
医師/歯科医師	121人 (初期臨床研修医22人)
看護職	438人
医療職	121人
事務職/技能職	116人

(令和5年4月1日現在)

業務実績	
患者延数	入院 111,687人 外来 253,982人
1日平均患者数	入院 306人 外来 1045.2人
平均在院日数	10.6日
外来化学療法件数	4,306件
手術室手術件数	5,232件
救急搬送患者数	5,538人

(令和4年度実績より)

薬剤部に関わる承認や指定

1964年11月に千葉労災病院開設承認を受け、翌年の1965年2月より診療を開始しました。これまでの60年の間で、無菌製剤処理承認、日本医療機能評価機構認定、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、認知症疾患医療センターの指定、災害拠点病院、DMAT指定病院、DPC標準病院群など様々な承認や指定を受けてきました。薬剤部では2018年6月より病棟薬剤業務を開始し、薬剤管理指導業務と併せて病棟での業務の充実を図っています。また外来通院治療室で抗がん剤治療を行っている患者さんへの指導・説明なども行っています。

病棟編成(10病棟編成)

4東:緩和ケア病棟	4西:消化器内科、脳神経内科、脳神経外科、眼科
5東:循環器内科、外科、産婦人科	5西:呼吸器内科、呼吸器外科、アレルギー膠原病内科
6東:糖尿病内分泌内科、外科	6西:消化器内科、腫瘍血液内科
7東:呼吸器内科、形成外科、整形外科、歯科口腔外科	7西:小児科、耳鼻咽喉科、整形外科、泌尿器科

集中治療室(ICU: Intensive Care Unit) 高度治療室(HCU: High Care Unit)



病棟薬剤業務を開始して数年が経ち、病棟に薬剤師が常駐する姿も今では当たり前になりました。最近では多職種のラウンド業務によるチーム医療だけでなく、病棟での業務そのものに多職種の連携が求められる医療へと変わりつつあります。また病棟が混合病棟であることや複数の疾患を抱えて入院してくる患者さんも多く、薬剤師も幅広い知識や経験が求められるようになってきています。患者さんを中心とした業務形態の変化に伴い私たち薬剤師の仕事もより一層の責任が求められるようになってきました。責任が増すとともに私たち薬剤師の仕事も“やりがいのある仕事”に成長しています。

千葉ろうさい病院の特色

千葉ろうさい病院は地域医療の中核を担う基幹病院です。そのため30もの診療科が集まり日々多くの患者さんに対して治療を行っています。当院は急性期病院のため緊急性のある患者さんを数多く受け入れていますが、呼吸器、認知症、自己免疫疾患といった治療が長期にわたる患者さんが多いことや、入院患者さんの約30%はがん患者さんであることも特徴のひとつです。その他、感染症、認知症、褥瘡、NST、緩和ケアといった分野では医師を中心としたチーム医療を実践しており、多職種の職員が適正に配置されチームラウンドが行われている病院でもあります。医師・薬剤師・看護師といった医療スタッフを始め、多くのスタッフが連携しながら患者さんによりよい医療を提供することができる病院であり、充実した毎日を送ることができる環境が整っています。



VOICE
 先輩たちの声

がん領域担当

みなさんは“がん”と聞いてどのような印象を持ちますか?一昔前であれば、“不治の病”という言葉が思い浮かんだことでしょう。現在、がんの治療は日進月歩で新しい治療法がどんどん開発されています。完治する方もいれば、完治せずとも病気と上手く付き合っている方も多くいます。治療法の進歩に伴い自分の知識を向上していくためには通常業務をこなしながら勉強を行うため大変ですが、新しい知識を取り入れ、患者さんの治療に貢献できたときは満足感が得られ、日々のやりがいに繋がっています。皆さんもチームの一員として一緒にがん治療に携わってみませんか。

糖尿病治療担当

糖尿病教室を担当したことをきっかけに患者さんの心理を含めて糖尿病についてもっと知りたいと思い糖尿病療養指導士の資格を取得し10年が経ちました。資格を取得する前に比べると、自分の患者さんへの関わり方が一歩踏み込んだものになり、患者さんの治療に対する不安が解消されていくときや血糖コントロールが順調に進む様子を経験するにつれ、仕事に対する自信にも繋がってきました。地域での活動ではクリニックや保険薬局が参加する会の世話役として多職種と一緒に学ぶ研修会の企画の提案といった運営にも関わるようになり楽しく仕事を行っています。

緩和ケア担当

2022年10月に緩和ケア病棟を開設し、当初は少なかった患者さんも少しずつ増え、最近では毎日20人前後の患者さんに関わるようになりました。疼痛コントロールが主な目的として始まった病棟ですが終末期の患者さんも多く、痛みのケアだけではなく心のケアも重要であることやご家族に対するケアも必要であることを日々痛感しています。最近では少しずつ経験が増えてきたことで、最初の頃に比べ患者さんの細かいところまで気を配れるようになってきました。病棟担当薬剤師として、緩和ケアチームのメンバーとして患者さんが少しでも健やかな生活が送れるようにサポートしています。

褥瘡担当

入院される患者さんの中には褥瘡リスクが高い方や褥瘡を抱えている方が多くいます。寝返りをうてない患者さんや体動の少ない患者さんでは、自分の体重により圧迫される部位の血流が悪くなることから褥瘡を起こしやすいため定期的な体位変換が必要です。褥瘡チームでは毎週行う病棟ラウンドでそういった患者さんに対して、「褥瘡が出来ていないか・皮膚が部分的に赤みを帯びていないか」といったことを確認しながら日々のケアに繋がっています。薬剤師の関わり方が難しい分野ですが、チームの仲間から多くの知識を吸収できるのは楽しいです。ぜひ一緒に薬剤師の活躍の場を広げましょう。

医療安全担当

医療安全では事故を起こさないために様々な対策を立てています。調剤ミスを起こした場合に提出するインシデントレポートからミスの原因究明や関連性を探したりする作業はとても手間が掛かり大変ですが、解析した結果から良い安全対策を思いついたときには仕事に対する充実感や満足感が得られています。毎月開催される委員会報告では他部署からの事故防止対策を知る良い機会にもなっています。最近では医療安全に関する講習を積極的に受けるようになりました。この業務に携わるようになり、注意深く調剤ができるようになったことや、初心を忘れずにいられることは自分にとって一番の収穫となっています。